

デジタル化推進特別委員会記録

令和4年4月7日

【開催日】 令和4年4月7日（木）

【開催場所】 第1委員会室

【開会・散会時間】 午前10時～午前11時25分

【出席委員】

委員長	伊場 勇	副委員長	恒松 恵子
委員	藤岡 修美	委員	前田 浩司
委員	山田 伸幸		

【欠席委員】

委員	白井 健一郎		
----	--------	--	--

【委員外出席議員等】

議長	高松 秀樹		
----	-------	--	--

【執行部出席者】 なし

【事務局出席者】

事務局次長	島津 克則	庶務調査係長	田中 洋子
-------	-------	--------	-------

【審査内容】

1 議会のICT化について

午前10時 開会

伊場勇委員長 皆さんおはようございます。ただいまより、デジタル化推進特別委員会を開会いたします。冒頭に、白井委員より欠席の届出を受けておりますので御報告いたします。それでは、付議事項に移ります。議会のICT化についてと、大枠を書かせていただきましたが、今回正副委員長で前回の委員会の内容を精査しまして、まずは、タブレットの導入による効果と役割についてまとめさせていただきました。なぜ導入するのかというところを、まずはっきりさせていきたいと思っております。この事項については、協議の中でより追加していく、また削除していくところもあるかと思っておりますが、基本の幹となる部分を今日、まずは皆さんで確認し合って、協議を深めていきたいというふうに思っておりますので、

よろしくお願ひいたします。それでは、まず、タブレットの導入による効果と役割という資料を御覧いただき、この議会の軸となる基本条例のどの部分に当たるのかというところを少し抜粋して出してみました。第2条議会の活動原則の第5号には、「議会運営は、市民の関心が高まるよう、分かりやすい視点、方法等で行うこと。」という記載がございます。そして、第8条議案及び関連資料の公開には、「積極的に公開します」と、また、第17条委員会の運営には、「様々な市政の課題に迅速かつ的確に対応するため、機能を十分発揮するよう運営します」とあります。そこでまず、議会の活動原則の中で、分かりやすい視点、方法等で行うことというところが、今の時代、タブレット導入にまず一つの役割があるのかなというふうに思いますが、このことについて、まず御意見ありますでしょうか。第2条議会の活動原則には、こういうような記載があると。それが、まず、その議会のタブレットの導入についても、役割の一つになるんじゃないかというふうに思うのですが、このことについてどう思われますか。

山田伸幸委員 タブレットを導入したら、市民の関心が高まるかというところでもないように思います。言えるのは、二つ目にあるんですけど、やはり同じ資料をペーパーではなくて、デジタル情報で共有できるという点があるかと思います。だから、その程度で市民の関心が高まるか、議会がそれをやっているという話にはなるかもしれませんが、その程度じゃないかなというふうに思います。

伊場勇委員長 そのほか、分かりやすいその視点と、次にその方法というのがあると思うんですよ。分かりやすい方法というのが、市民の皆さん、かなりの確率でスマホを持っていらっしゃるし、そういうところに情報発信するに当たって、議員がそれぞれタブレットを使ってやっていると、それをまとめて迅速に、また情報発信もしやすくなるではないかというふうに思って、この抜粋をさせてもらったんです。

山田伸幸委員 以前から、議会にはフェイスブックというものがあつたんですけど、これ事務局に任されていて、議員が勝手に記事を書いたり、コメントを発したりというのはできない状況だったんですよ。だから、本当に率直な意見がなかなか発信しづらいというのがあって、そういった意味でいうと、もっと議員がそういう情報発信に携われるような、どこにいても、そのタブレットからそういう情報が出せればいいんですけど、今の状況だったら出しても恐らくぱっと消されてしまう気がするんですよ、議員が書いたものについては。だから、本当なら議員がもっと積極的に議会の情報を含めていろんな情報を挙げて、今あるのは、せいぜい議長の動静というか、今日議長がこういうことをしましたよとか、委員会はこれがありますよって、お知らせ程度なんですよ。だから、議員が発信することによって、いろんな関心が湧くのではないかなというふうに思うんですけどね。

伊場勇委員長 そういった活動も、タブレットがあればしやすくなるかと思えます。この方法等によっては、少し議論が必要だと思いますけれども、その次の「積極的に公開します」というところにおいても、今言った、タブレットを使うと迅速に市民の方にも情報提供ができるのかなと思えます。その仕組みについては、また考えないといけません。

山田伸幸委員 公開については、もともと山陽小野田市はいろんな議会資料等の公開等を手がけてきています。本当、事務局の努力もあって、議案等も頑張ってPDFにして、全部すぐ見れるようにしてくれていますし、委員会に入っても、市民にも素早く同じものが手渡されて、傍聴に来られた方も分かりやすくなったというふうに好評を博しています。やはり、ここでは、もうかなりやられていると思うんですね。それが、デジタル化することによって、紙ベースを渡すんじゃなくて、市民もタブレットなりを持ち込めば、それですぐ見れるというふうにすると、これはかなり効果的な方法になるんじゃないかなというふうに思います。

藤岡修美委員 市民の関心が高まるのはもちろんですけど、今回、議会報告会に替わって、各委員会ですべて作成する中でも、議員のそういった資質が向上してくるのではないかなど。デジタルインフォメーションに対する知識とか、いろいろ体験することによって、その面でも効果があるのではないかと考えます。

伊場勇委員長 そうですね。その点については、また下でしっかり取り上げようと思っています。第17条委員会の運営なんですけども、いろいろこう難しい文言や条例等々がその審議の中に出てくるわけじゃないですか。そのときに、議会基本条例ではやはり迅速かつ的確に対応しなきゃいけないので、機能を十分発揮するよう運営すると。その機能を十分発揮する上で、しっかり情報を取っていく作業というのも、委員会中にできたほうがいいのではないかなというふうに思うんですが、その点はどう思われますか。もちろん事前に資料や議案はありますから、しっかり自分で調べてくるのは当たり前だと思うんですけども、ただ、その議論の中でということですよ。

山田伸幸委員 今までだったら委員会で使うために自分で資料を集めて、委員長の許可を得て、コピーしてもらって委員に配付するということがあるんですけど、例えば、もうそれ自分でPC上に持っておいて、それをすぐLINEなりで共有できる場とするとか、そういうことをすれば、この部分を言ってるんだなって、すぐ分かりますけどね。だから、そういうふうな運用が委員会でもできるかどうかですよ。

伊場勇委員長 もちろん山田委員が言われた、情報の共有というところは、このタブレットが導入できて、そういう環境があれば、すぐできますし、より充実した議論ができるんじゃないかなというふうに私も思います。機能を十分に発揮できる一助となると思います。そのほかに意見はありますか。この基本条例について、私がちょっと見て抜粋したものなんですけど、そのほかに、この部分にもやっぱりタブレット化について、当

てはまるじゃないかというところがあるかもしれません。この基本条例は名のとおり、議会の基本的な根本ですから、そこはまたちょっと委員もちょっと目を通していただいて、また、ここに追加できるものがあるんじゃないかなというふうに思いますので、その点についてはお願いします。

山田伸幸委員 議会基本条例は、成立させるときからずっと携わってきたという経緯もあって、非常に細かくやってきた思いがあります。その中での一つのキーワードが、市民への公開、それから議員の資質向上ということで、両方取り組んできた非常に課題でもあるんですね。資質の向上は何によってなされるかということになると、やはり、当日、議案が配付されて初めて目を通すではなくて、事前にきちんと目を通して、それに対する問題点を洗い出すといったことをやられた上で、議論が白熱してくるわけですね。そういったときに、先ほども言ったように、自分でいいと思った資料なんかも、皆さんにお配りをすることも瞬時にできるわけですから、積極的に公開だけでなく、資質の向上、議会の議論が市民にも見えやすくなるんじゃないかなというふうに思います。

伊場勇委員長 資質の向上については、どの部分の条例がこれに当てはまるかというのは、また精査してここに加えてはどうかと。僕はいいかと思うんですが、そのほかの委員は、どう思われますか。

藤岡修美委員 タブレット導入による効果と役割と、議会基本条例の関係をそういう意識で改めて見ていなかったのも、新たにそういう視点で見直して、改定すべきものは改定すべきだし、何か追加すべきものは追加すべき、そういう視点で基本条例を見直すのもいいかなと今考えております。

伊場勇委員長 そうですね。その視点も入れながら、議論していきましょう。それでは、その下に行きますね。議会の機能の強化というふうに書かせていただきましたが、やはりタブレットを導入することで、どのように

議会の機能が強化できるのかというのを、前回の委員会の中で出た意見と他市の事例もいろいろ調べまして、①、②、③と大枠を三つに分けて記載いたしました。まず、①議会の活性化・議員の資質向上。資質向上は先ほど、藤岡議員も山田議員も言われましたが、迅速な情報の収集。これは委員会中の議案審査等々のさなかもそうだと思います。また、議案審議、委員会での活用、委員会活動での活用、そして市民への迅速的確な情報提供と、今考えるのは、この三つがあるかなというふうに思っておりますが、この議会の活性化と議員の資質向上、この三つ以外に、何かお考えがあれば、意見いただきたいと思うんですが。

山田伸幸委員 気を付けなくてはいけないのは、情報は何でもかんでも集めればいいというものではないんです。特に、今はもうあらゆる情報が氾濫をしていて、その中で本当にこう無責任でないものをきちんと取捨選択するという作業も求められてきています。特に、私たちが議会として取り扱うべきものとして、やはりそれをきちんと踏まえていくことが必要だというふうに思います。以前、大学の先生と話したときに言っておられたのは、字句を調べるのに、みんなウィキペディアを使ってしまうと。あれは、非常に不正確で、何の学術的裏づけのないものだということをやばつと言われたんですね。それまでは僕もウィキペディアを使っていたんですけど、やはりきちんと百科事典なり、そういうもので調べると、ちょっと違っていたんですね。あれはいろんな人が書き込みできるようになっているんですね。ですから、学術的な裏づけのある、そういった情報ではないということを知ったんです。やはり、そういったものを平気で使っている人もいまだにいますし、だから、新聞記事も自分で、その記事をただ読んでいるだけで、その記者が集めてきた情報に基づいて取捨選択をしてその中で自分が思っていることだけを書いているのが記事なんですね。ですから、新聞記事をうのみにして、それを議会資料としては出さない、好ましくないということで、今、新聞記事は議会資料にはならないんですよ、事務局。

島津議会事務局次長 一般質問等で、議員が参考資料として出されることはあります。新聞社にきちんと許可を取った場合は、一般質問の資料として使用しております。

山田伸幸委員 要するにですね、新聞社の方針によって、記事は組まれているわけですね。そこで、ひょっとしたら読者にとって、自分たちの主義主張と合わない部分を削られる可能性があるものが新聞記事だということなんですね。だから、データにしても自分の都合の良いことばかり集めてということはよくあります。以前、公害問題、原発の被害のときに、ある野菜が放射能を帯びていたという報道をぽんとしたんですね。よく聞いてみると、その野菜というのはお茶の葉っぱだったんですよ。それは、通常市民がそれを購入して、食卓に載せるようなものではないわけですね。だから、本当にその記事の書き方によっていろいろな受け止め方ができるので、記事について、やはり議員がもっと自分で裏づけを取っていくといったことが必要になってくるし、それができて初めて資質向上につながるというふうに思っています。

伊場勇委員長 山田委員からは、情報の取扱いについてだと思います。これは情報化社会に急速に発展した中で、これはもうずっと課題ではあると思いますので、この情報の取扱いについては、また随時話し合いながら、決めていかなきゃいけない事項でもあるとは思いますが、どのように発信するのかという、発信の仕方については、これは本当に正しい情報かどうか、どのように精査をして、どのような方法で発信するかというのも必要になると思います。ただ、そういったところを学ぶことが、また議員の資質の向上につながっていくかと思ったり、そこは研修にするとか、そういうところも必要かなというふうに思います。そのほか、この①のところで意見ありますか。前田委員については、新人議員として議会に入って、まだ数か月しかたっていないかもしれませんが、どのように感じられるか。

前田浩司委員 ①のところ項目として3点ほど書いてありまして、究極の最終の目標は市民への迅速な対応と。ただし、それ以前にまず、皆さん方がおっしゃられた、その議員の資質、能力の向上ということで行くと、議員がどの媒体でどういった調査の仕方をしているかということが、まず一番大事な取り掛かりになっていくのではないかなというふうに思います。あとは一つずつそういった運用を介して、今情報の有無というか、その辺のチェックもおいおいしていくということからいきますと、まず、議員としてのタブレットの使用はそういった情報を上手に、クラウド型じゃないですけども、共有エリアに情報提供して行って、みんなで一つずつ協議をしていくというような流れからのスタートになるのではないかなというふうに思います。

伊場勇委員長 なるほど。前田委員に聞きたいんですけども、議会に入って、多分いろんな新しい言葉がたくさんあったと思うんですよ。いろんな議案を審査される中で、もちろんその場で調べられたらよかったんじゃないのかなというふうにいると思うんですけど、その点どうですか。

前田浩司委員 いろいろと議会の議事録を拝見させていただく中で、なかなかこう見づらいというか、分かりづらい部分というのかなりあるような気がしてなりません。ただし、その途中経過というか、どのような流れで進んでいくかという流れもちょっと見えづらいというか、やはり、そこについては、各議員でしっかりいろんな情報を自分でまず調べていくということがまず先決になってくると思います。今の市で持っておる議会の議事録も、なかなか検索というか、前に戻っていくのも結構難しいような状況なので、今後こういったタブレットの導入によって、各議員がどういうような手法で、どういうような調査研究を進めていっておるのかなというためには、まずやはりこのタブレットの導入、最優先、必要になってくるものかなというふうに感じております。

伊場勇委員長 なるほど。資料の整理をもっときちんとしていけば、迅速にそ

の資料が出せて、委員会の中でも審査がしやすくなるという、そんな感じですか。

前田浩司委員 いろんな委員会の活動の中で、皆さん方いろいろ調査をされておられると思うんですけども、まず、そういった情報をどこから入手されたかというのも、他の各委員会の委員の方が調べられた背景というのが見えるような調査経過というか、そういう部分の情報共有というのでも必要になってくるんじゃないかなというふうには思うんです。

伊場勇委員長 情報を共有するときに、これはどこから持ってきた資料だとかいうところは何か少し書くとかいう、そういったルールも作れば、その受け取った人が分かりやすいというふうにはなるかと思えますね。次のほうに移ります。

恒松恵子副委員長 議員の質向上の観点もさることながら、議会の活性化という意味で見ると、例えば、委員会が変更になったときとか、もちろんタブレット内の情報整理が明確にできていてからになりますけれども、過去の委員会の審査経過などが即時に見えれば、自分はこの委員会じゃなかったから知らないということがなくなるのではないかなと思えますので、委員会でも積極的な意見交換、過去に做った審議ができるのではないかなと思えます。

伊場勇委員長 それでは、議会運営の効率化のほうにちょっと移りましょう。今までも出ていますが、今恒松副委員長が言われた、一番下にありますが、「過去資料の検索を効率化」するということに当てはまるかなというふうに思います。そのほか、例えば議会スケジュールの一元管理・迅速な共有ということで、今これタイムツリー、無料のアプリを使って管理して、全員の方がこれを見て議会の日程等々確認しているというふうに思います。例えば、タイムツリーをタブレットに導入して、携帯とタブレットの両方になりますけれども、管理ができる、プラス迅速な

共有というところ、何をするのかということと、そこへまた資料も載つけられるような形も取れたら効率化に進むんじゃないのかなというふうに思って書きました。また、ペーパーレス化によって、大量な印刷物の整理、そして、また持ち運びが不要になるということ。次に、ペーパーレス化によって紙資源の削減、SDGsへの取組が進むということ。また、事務作業の軽減ということで、これは印刷作業や資料の配布作業等、議場でも、22人分、事務局が一生懸命1枚1枚配って、また2人、3人で、たくさん資料があるときは、もう一個一個置いていかなきゃいけないという作業があるので、そういった作業が軽減されるのではないかなということ。もう一つは、資料の電子データ化による資料の蓄積ということで、今、議会図書室がありますが、議員で果たしてここを使っている人が何人いるのかなというふうに思いますし、探しづらいなというところもあったりするので、その点についても、議会運営の効率化という面で、タブレットが役に立つんじゃないのかなというふうに思います。議会運営の効率化については、以上を挙げさせていただきましたが、このことについて意見を頂きます。

山田伸幸委員 ペーパーレス化の恩恵を一番受けるのが執行部なんですね。執行部は議会の委員会に出てきたときなんかは、大量の紙媒体のファイルを抱え込んで、特に財政課あたりは、もう本当、起案の段階からきちっとそういった文書を保存していて、それを持ち込んで、議会の質疑に答えているんですね。それがクラウドで結んでおけば、瞬時にデータを取り出せるわけですから、そういったことがされていけば、このペーパーレスというのは、本当に実効性があるし、できれば議員のほうも、ただ市から提供されたものだけではなくて、事務事業の評価シートなんか分かるんですけど、その基になった表、シートというのは、それを別に請求しないと出てこないの、それも含めてアップしておいていただくと、私たちはそれも見ることができるということになるんですね。だから、そういった意味でいうと、事前の調査のときも表に出ている事務事業評価プラス、その基になった資料も見ることによって、積極的な

委員会の質疑ができていくんじゃないかなというふうに、僕なんかは思います。そして電子データ化するというのは、やはり、これからの開かれた市政、開かれた議会を標榜するまちであるならば、それをやってしかるべき、しかも過去、例えばもう合併前辺りぐらいからのデータを蓄積していくことが必要ではないかなというふうに思います。

伊場勇委員長 執行部側のほうについては、言われたことがあるかなというふうに思うんですけども、まずはこの議会運営の効率化について議論しましょう。例えば、電子データにするというふうにありましたけど、今の資料って、一応PDFとかにされていますけども、なかなか検索しづらいなというふうに思うんですよ。例えば、山口東京理科大学について、建て替えのときの資料が欲しいとなると、山陽小野田市議会のホームページを開いて、委員会のところに行って、それから特別委員会のところをクリックして、資料しか出ていないので、その資料を1個1個見て行って、これ違うなって、また、その次の年度、前の年度で下がって、また開いてみて、これ違うなとか、あの辺の作業ができたらいいかんと思うんですよ。議事録検索システムがあるじゃないですか。議事録検索システム的时候は、本会議だけだと思うんですけども、キーワードにまず打ち込んでヒットする年数と月をメモして、また先ほどの委員会の資料のところに戻って見たりしているんです。だから、キーワード検索により一発でずらっと出てきてくれたら、このときこういうふうな審議をして今があるんだなというのが、すっと理解できるのかなというふうに思うんです。それは多分データが膨大な量になるかなと思うんですが、もしその辺ができたらいいかんと思うんですよ。それが、審議のときにタブレットで見れたらいいなって思うんです。

山田伸幸委員 そういった検索を、より細かく、素早くしようと思ったら、やはり単語登録がずっとされていて、それをどういうふうに作業するか分かりませんが、今頃AIというのがあって、勝手に拾い集めて、ファイル化して、検索ヒットしたところに飛んで行って見せてくれると

ということまで導入されていたら、委員長が言われたようなことはなくなると思いますね。

伊場勇委員長 事務局にお聞きしたいんですけど、今PDFじゃないですか、何かそれを電子データ化するという事は難しいですか。

島津議会事務局次長 執行部から提出される資料については、いろいろな形式で出てきます。もともとPDFで出てくるものは、おっしゃるように検索というのは難しいだろうと思いますので、ワードで出てきているものをそのままワードでとか、エクセルで出てきているものをそのままエクセルでというのは可能かもしれませんが、資料としてばらばらになってしまうのかなというところはあると思います。それで今はPDFに統一して、一つの資料として出しているところです。可能か不可能かと言われると、元がワードとかエクセルであれば、形式をワードとかエクセルのままにして、そのまま挙げることは可能かと思います。

山田伸幸委員 一番問題は、そのデータが変えられてしまうような形式ではないということですよ。だから、固定化してしまうというか、検索はできるけれど、ほかの作業はできないというふうに作っていかなくちゃいけないんですよ。それさえできるなら、そのほうがこちらとしてはありがたいですよ。

島津議会事務局次長 山田委員のおっしゃるとおりで、ホームページ上であれば、そういった二次利用とか、どういうふうにご利用されるのか分からないという点はあるんですけども、例えば、タブレット等を導入して、皆さんで元のファイルのまま共有するという事は可能かと思います。

伊場勇委員長 なるほど。せっかくタブレット化に向けて動いているので、その辺も一緒に、運用するときにはできたらいいかなと思うので、その辺もちょっと併せて考えていく必要があるかなと思います。

山田伸幸委員　ただ、市の場合だとセキュリティーの問題があるんですよね。ですから、セキュリティーと切り離された、クラウド上の空間にそういったデータ類があるといいかと思うんですよ。だから、いちいち市役所の中のサーバーに入っていないと見れないようにしていたら、あまり使い物にならないデータになってしまう。検索しようにもなかなか出てこないということになってしまうと思うんですけど、その辺どうなんでしょうか、今の状況で。

島津議会事務局次長　今想定しているのは、皆さんがもしタブレット等を持たれたらという話ですので、当然市のネットワークとは切り離されておりますし、基本的に公開されているものを皆さん見られております。資料等も全て委員会で使うものは、市民の方も見れるようにしておりますので、セキュリティー上、たとえそれが表に出たとしても、何ら支障のない情報であろうというふうには思います。

山田伸幸委員　そのデータというのはどこにあるんですか。サーバーですか。それともクラウドに上げてあるんですか。

島津議会事務局次長　もしも仮に導入するということであれば、その導入するアプリ、ソフトによっても変わりますが、恐らくクラウド上に蓄積されるということになると思います。

伊場勇委員長　今公開されているものをどう効率的に資料としてすぐ引っ張り出してこれるかというところだと思うので、それが可能になれば、委員会審査についても、効率化するだろうということです。

山田伸幸委員　それと、こういったデジタル化の大きな機能の一つとして、以前、議会として市民アンケートをやったんですね。返信があったのは600通程度ですけど、それをAIにかけて分析させるということがもし

できていたならば、いろいろな活用ができたんじゃないかなと。それはもう議員が全部見てから、大体で判断していたんですよ。賛成、反対とかそういうのに区分けするのがせいぜいで、だけど、何重にもいろいろなパターンでデータを検索して、そういう直感ではなくてデジタル化されたデータによる分析、そういったことができたのではないかなというふうに思うんですよ。これは、正しくデジタル化できていたら、そういったことができたのではないかなというふうに思っています。

伊場勇委員長 市民アンケートについては、AIが今後発展していくので、いつかのタイミングで分析方法を使うことがあるかもしれません。それでは次に移りますが、次に行く前に暫時休憩いたします。

午前10時40分 休憩

午前10時50分 再開

伊場勇委員長 それでは、委員会を再開いたします。次に、③危機管理体制の強化です。

藤岡修美委員 ③に移る前に、②の議会運営の効率化で、一番最初の議会スケジュールの一元管理で、今、本議会はタイムツリーで皆さんスケジュールを一元管理していると思います。その前にサイボーズを使用していたときに、これは山田委員からもあったんですけど、何かデータをそれに上乘せ、例えば、陳情書なり要望書なりが載つけられたんじゃないか。何かそういったグループウェアの導入もちょっと検討したらどうかなと思うんですけど、いかがでしょうか。

伊場勇委員長 グループウェアについて。

山田伸幸委員 サイボーズがいいのか、どれがいいのか分かりませんが、

自動的に管理というか、議会事務局の働きも大きかったと思うんですけど、それに情報とデータと、そういったものが全部、適宜挙げられていたので使いやすかったんですけど、今は無料では使えませんし、たとえ有料であってもそれを使うのがいいのか、あるいはラインでやってしまうのがいいのか。ただ、スケジュール的なものが、ラインによって送って来ていただければ、それは済む問題ですからね。そういうふうな運用が可能かどうかですよ。データの共有だったら、ラインでも十分できる話ですから。

伊場勇委員長 グループウェアについては重要な観点だと思います。その一つのグループウェアで全てが完結できるようにするほうが効率的になると思います。サイボーズオフィスとか、その他いろいろある中で、その辺の精査を導入するんであって、まず必要かどうか、導入するためには、どのアプリケーションソフトがいいのかというのは、私もサイボーズオフィスについては少し資料等々取り寄せたり、実際に業者から聞いたりしておりますので、その辺はまた手法の一つとして議題に上げたいというふうに思います。

山田伸幸委員 島津次長にお聞きしたいんですが、なぜあのときサイボーズは中止になったんですか、その経過について。

島津議会事務局次長 サイボーズは無料のライブを使っておりましたが、有料になりまして無料版がなくなりましたので、タイムツリーへ移行しております。

山田伸幸委員 実際に、議会事務局としての手間というか、それはどうだったんですか。

島津議会事務局次長 サイボーズを使う上での手間ということでしたら、特に今と変わりません。今でしたら皆さんにメールで記録を添付して送らな

いといけないものが、そのファイルに入れておけば、皆さん誰でも見れるようになっていたので、使い勝手としてはサイボーズのほうがいいかと思えます。当然、今議論していただいていますけど、タブレットを導入すればいいということではなくて、ファイルを共有するようなソフトシステムは必要だと思っています。

伊場勇委員長 そのシステムを導入するに当たって、他の市議会で行き組まれている内容なんですけど、③になります。危機管理体制の強化というところで、このシステムの導入が必要と書いていますけど、先ほど、藤岡委員がおっしゃったグループウェアの導入でございます。そこで、災害時、迅速な安否の確認とその共有ができるということ。また、災害情報の共有ということで、画像や同課での状況を迅速に集約収集して共有できるということで、そのグループウェア内に、議員の皆様は市内全域にいらっしゃいますので、例えば、自分の近くのところでこういった状況、被害が起こっているといったところも、そのグループウェア内に上げていただければ、それは皆さんで共有できるといった内容になっておりますが、このことについて御意見をお願いいたします。今、もし災害時の安否確認とか、そういうのはシステムはないと思うんですけど、どういうふうに把握されているんですか。

島津議会事務局次長 現在は、事務局でも年に1回は訓練しております、タイムツリーのコメントを使って、皆さんとそういった情報共有の訓練しております。市の防災訓練に合わせてやったと思えます。それからサイボーズを使っているときは、もちろんこれも同じように、コメントを頂いたり、中には山田委員から大雨のときの写真を送っていただいたり、そういった共有をしておりました。

恒松恵子副委員長 事務局にお伺いしたいんですが、その情報は、例えば土木とか執行部のほうにもすぐに届くわけですか。判断は事務局がなされるんですか。

島津議会事務局次長 本市は、災害連絡会議が設置されることになっておりまして、事務局からは事務局長が市の災害対策本部員として入ることになっております。市の情報は、事務局長から入り、それから議員の皆さんに送っております。議員の方から入った情報については、事務局長が災害等対策本部に伝えるようにしております。

伊場勇委員長 ということは、今タイムツリーでその動画とか、そういった資料とかはコメントでやっているの、あと画像とか動画も出ないんですよ。コメントだけで、今こういう状況になっていますというふうになっているので、より詳細な情報を共有するとなれば、以前のサイボーズオフィスのようなシステムを使ったりとか、そういったグループがあれば、可能になるというようなことだというふうに理解をします。

山田伸幸委員 このタイムツリーでデータの共有はできないんですか。

島津議会事務局次長 たしかデータ等のやり取りというか、共有はできなかったと思います。

伊場勇委員長 あくまでもこれスケジュール管理表みたいなことですよね。このタブレットを導入するに当たって、そういうグループウェアを使うのであれば、そういった危機管理体制の強化にもつながるのではないかと、いうところがございますので、それも併せて、タブレット化の効果、そして役割に当たるのかなというふうに思っております。この点についてはいいですか。（発言する者あり）今までの協議等いろいろ他市の事例も含めて正副事務局で、この効果と役割については抜粋させていただきましたが、これ以外にもいろいろあるかと思っておりますので、委員の皆様からもこういった文言を加えたらどうかとか、タブレットを導入する根本的な部分になりますので、しっかりここは再度見直して修正しながら、固めていきたいなというふうに思います。またその都度、議題には載せ

ていこうかなというふうに思いますので、よろしくお願ひします。よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）それでは、この1枚の資料についてはこれで終わります。

藤岡修美委員 ①の委員会活動での活用か③の危機管理体制の強化で出てくるのかなと思ったんですが、リモート会議をうちがやろうとしていて、できませんでした。その辺りは会議規則の改正等々出てくるかも分からないんですけど、こういったコロナ感染は議員には出ていないんですけど、そういったときに、リモート会議の開催も頻繁に必要なようになってくるのではないかと思います。いかがでしょうか。

伊場勇委員長 今リモート会議についての提案がありました、それについては委員からの意見はありますか。

山田伸幸委員 この御時世というか、今後もやはり離れたところでのそういう会議や講演会といったものは、是非研究して行っておくべき課題だと思います。できたら、委員会の特別な条例か若しくは運用について規定をしておくべき内容があるんじゃないかなというふうに思いますね。

伊場勇委員長 オンラインの方法についての委員会の開催とか、そういったところは、今全国市議会議長会のほうでも専門委員会が作られて、その条例をどのように変えたらいいのかという事例等々がいろいろありますので、また、この資料についてはちょっと共有させていただいて、もしそのリモート会議ができるのであれば、とても有意義に、万が一、災害時に使えるかなと思います。なかなかこう書き方が複雑なようで、地方自治法からのつながりとか、これを市議会独断で決めていいのかどうかというところもいろいろありますので。

山田伸幸委員 例えば、正式な委員会なんかだったら、賛否を問う場合もありますよね。そういったときに、リモートでそれがいいのかどうなのかと

ということもあろうかと思うんですよ。意見を言うことはできるけれど、賛否には加われないというふうになったり、あるいはそのリモートを通じて賛否を表明するということが有効なのかどうかですよね。だから、こういったやり方を導入しようとする、今までとがらっと変わってきているということをしっかり踏まえた上で議論していかなくちやいけないと思います。

伊場勇委員長　そうですね。その点については、次の機会にでも協議できたらいいかなと思います。

山田伸幸委員　ちなみに私が所属している団体では、リモートでも参加とみなすというふうに運用されています。

伊場勇委員長　団体はそういうふうに規定されていると思いますが、議会としてなので、たくさんの壁があると思います。会議規則等、たくさんございます。それでは、この資料については終わります。続いて、山陽小野田市議会タブレット導入のスケジュール案について、御協議いただこうと思いますが、この案については、まだ案でございますので、私の思いが大分入っておりますが、正副委員長と事務局で書かせていただきました。この案が全てこのまま行くわけにはならないと思いますので、これをしっかりこう、今の状況を踏まえて話していきたいと思いますが、令和3年12月にデジタル化推進特別委員会が設置されまして、1月12日の委員会で、まずはタブレット導入について取り組むことというのを決めました。前回の3月2日の委員会では、県内市町の状況の確認、またそれについていろいろ協議をして、本日の委員会というふうになっております。これからなんですけども、まず、4月19日と20日に、タブレット12台を業者の方に持ってきていただいて、実際に、他市議会での使い方等々をデモ体験していただこうかなというふうに思っています。今のところ1社だけです。まずはちょっと触れて体験していただいて、そこにたくさんの気付きがあると思います。それをまず全議員、こ

これは絶対に来なきゃいけないというわけではないんですけども、全議員を案内して、他と書いているのは、執行部のほうにも体験していただきたいなというふうに思っておりますので、この委員会後にちょっとお伝えに行こうかなというふうに思います。19日か20日ということなので、日程については協議して決めたいというふうに思っております。その後、そのデモ体験を受けて、また4月下旬には委員会を開きたいなと思っているのと、ちょっと日程が5月にずれ込むかもしれませんが、議会DXについて、新しい議会アドバイザーの長内さんという方、マニフェスト研究所の方について、これは議員研修として、デジタル化推進特別委員会の提案で議会運営委員会に諮らなきゃいけないので、議会運営委員会で承認いただくと、このDXについての研修を実施すると。まず、体験してもらって勉強していただいて、議員全体の質の向上プラス、ちょっと機運も上げたいなというふうに思っています。それに続いて視察も委員会で行こう行こうとして行けてないので、もう本当歯がゆいんですけども、まずこの特別委員会で視察も是非行きたいなと思います。なるべく早い段階で行きたいと思います。（発言する者あり）近くで、視察を。その後、5月から8月に向けて、これ細かいところをしっかりと決めていかなきゃいけないかなと思います。機種の詳細や、また、運用規程等々を決定していく中で、このタブレットを導入すべきだということ、やはりタブレット等の予算が上がる前に議会で決めておく必要があるというふうに思っておりますので、6月定例会中に、議員全員で、これはタブレット導入すべきであるというふうなことを決めることができたら、その後、タブレット導入及び関連経費、関連経費というのはWi-Fiとか、タブレット以外にキーボード等もありますし、その点についての補正予算の上程があつて、私の思いでは、これ9月に補正を上程していただくことができれば、できれば令和4年度内、本格的な始動は3月になるというふうに思っています。上程し、もし可決することになれば、議会の中でもICT化担当議員として、このデジタル化推進特別委員会の委員を中心に決定して、なかなか使い方が苦手な方々にもきちんと教える責務が我々にあると思っておりますので、それを決定して運用規

程等を検討及び整備をして執行を開始すると。なので、9月で予算が可決できれば、可決できればですよ。何回も言いますが、すみませんね。それが12月になっても悪いことはないかもしれませんが、導入できるのであれば、物がちゃんと入るかというところもありますけど。（発言する者あり）一回読んで、あと意見くださいね。今年度3月に本格的実施、議案書等の廃止を全会一致して、また決定していただくことがこのタブレット化導入に向けたスケジュールかなというふうに思っております。まず、4月までの内容について意見を頂きたいと思います。お願いします。

山田伸幸委員 スケジュールはこれでいいです。一致しているものとしてしゃべりますけれど、このタブレット導入について、やはり議員に説明する場が一度要るんじゃないかなと、決定の前に。今、委員会としてこういうふうな話をしていますよと、ついては、タブレット化について皆さんの御意見をお聞かせいただきたいというような、そういう場が必要ではないかなというふうに思いますね。それがないと、あとずっとボタンのかけ違いになっていくんじゃないかなと思います。

伊場勇委員長 それは早い段階ですか。（「はい」と呼ぶ者あり）早い段階でということは、どれぐらいのイメージですか。

山田伸幸委員 別に本会議でなくてもいいわけですから、議員連絡会でも、あるいは全協という場で、今までの議論を通じて、まず議会として取り組む問題の取っかかりとして、このタブレット化を導入したいと、ついてはこういう方式でやりたいので、皆さんの御意見をという場があればいいと思います。

伊場勇委員長 その点については、全議員の意見をとか、そういうところはちょっと進め方にもよると思うんで、また協議させていただきます。タブレットのデモ体験についてはどうですか。（「いいと思います」と呼ぶ

者あり) いいと思いますか。一応、内容的には12台のタブレットがあって、先ほど言ったグループウェアについて、グループウェアも実際、サイボーズになろうかと思えますけど、モアノートでしたっけ。モアノートというのは、サイドボックスというメモができたり、マーカーができたりとか、本棚があったりとか、そういったシステムなんですけど、モアノートについての疑似体験をすると。疑似というか、実際に使っているものをどういうふうに運用するかというところだと思うんですけど、そういう体験をしていくということなんですけど、体験は全議員ということで、これはデジタル化推進特別委員会で進めるんじゃないくて、議長発信で、議長から全議員の方にこの日の何時から何時、また何時から何時にやりますので、御希望の方来てくださいというふうな形を取ろうかと思えます。デジタル化推進特別委員会については、もうまとめて何時というふうにやったほうがいいかなと思います。2日間が業者がオーケーだったので、1日で完結できるようにスケジュール組みたいと思います。もう2週間後なので、今日には決めたいと思います。そのほか。

山田伸幸委員 今一番懸念しているのが、注文して果たして物が入るかどうかという点です。今、最優先課題はスマホだそうですけど、半導体のね。今、車で言ったら半年待ち、パソコンで言ってもメーカーによって異なるそうです。自分で調達できる場所は早いようですけど、外注に出しているところはかなり遅くなるということを聞いておりますので、その辺もちょっと併せてきちんとしておくべき課題ではないかなというふうに思っています。

伊場勇委員長 そのほか。4月まではよろしいでしょうか。(「はい」と呼ぶ者あり) 4月以降ですね、5月も必ず委員会をしていく形になるかなと思いますが、いろいろ導入時期とかも言いましたが、それについての御意見ありますか。

山田伸幸委員 運用規定が後になっているんですけど、運用規定に基づいて、

やったほうがいいと思うんですけどね。どうでしょうか。

伊場勇委員長 運用規程が後というのは、どの部分ですか。（発言する者あり）
一応5月から8月に運用規程等を決定というふうに書かせていただいているので。運用規定も使ってみながら、また、いろいろあるのかなど思ったりもするんですけど、もちろん大枠は決めなきゃいけないんですけど。

山田伸幸委員 だから、議会として議決すべきことは予算のことだけだと思います。ですから、決定すれば、その辺の取り計らいは、あと事務局にお願いするしかないと思います。

伊場勇委員長 そのほかありますか。どうにか、この年度内にできないものかなど。ずるずる来年になったり、再来年になったりするよりかは、早く進めるべきじゃないかなというふうに思いますが、いかがですか。

山田伸幸委員 機器の導入については、私なんかは、クラウド方式でそれぞれが自分の使い慣れたものでというのがいいかなというのを私は思っています。ただ、どうしてもみんなが同じ機械を持たなくちゃいけないとなるとまたちょっと選定についても、いろいろな意見があろうと思うので、それを検討し直していかなくちゃいけないんですけど、どうなんでしょうか。長門市方式で、それぞれが自分で準備するというふうにする、市の予算は非常に少なくて済むんですよ。

伊場勇委員長 その点については、またちょっと議論していきましょう。なので、この特別委員会として、年度内の運用を目指していくというスケジュール、目標でよろしいですか。

藤岡修美委員 先ほど危機管理の議論もありましたけども、こういったコロナの状況下、それから災害等々を考えたら、なるべく早くそういったタブレット導入をやられるべきだと私は考えます。

前田浩司委員　ちなみに、このタブレットの導入については、全議員を対象にされるのか。会派に1台とか、各委員会で1台にされるのかとか、その辺はもう全議員ということでの認識ですか。

伊場勇委員長　全議員です。全議員で、1人1台プラス事務局数台ということです。年度内への導入に向けてはどうですか。

前田浩司委員　できるだけ早くやはり進むべきことかと思っておりますので、やはり4月19日、20日にデモの体験を、しっかり全議員にさせていただくなり、皆さん方の方向性が一つに向かってほしいかなというふうに思っております。

伊場勇委員長　御意見なければ、もう年度内の導入に向けて、まずはしっかり進めていくというふうな考え方でいいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）このスケジュール案は、案でございますので、また、これがしっかり詳しくいろいろ書き込めるように進めていきたいと思っております。今日のところは、以上となりますが、そのほか、委員の皆さんから御意見はありますでしょうか。

山田伸幸委員　ちょっと事務局にお聞きしたいんですけど、補正予算を組む場合と考えたら、大体どの辺りに決定をすれば、補正予算へというふうな話になっていくんでしょうか。

島津議会事務局次長　以前言ったとおり、事務局としては令和5年度とは思っていたんですけども、仮に9月補正を出すとする、もう7月にはどのようなものを導入するかということで、予算の金額を決めて要求しないと難しいんじゃないかなと思います。直前ですぐ計上できるわけでもありませんし、見積り等も取らないといけませんし、今回の場合でしたら他課との調整もありますので、結構難しいとは思っておりますが、も

しも急ぐということであれば、これから動いていきたいというふうには
思います。

伊場勇委員長 ということですが、よろしいでしょうか。それでは、
以上で本日のデジタル化推進特別委員会を閉会いたします。お疲れ様で
した。

午前 11 時 25 分 散会

令和 4 年（2022 年）4 月 7 日

デジタル化推進特別委員長 伊 場 勇